

第五回御上史研究会資料（八月十九日）

◎研究主題 長崎街道、古代官道とその道路沿いの史跡

(1) 長崎街道と古代官道（三つの道は同じような道であるが役割が違ってきた）

(2) 徳川時代のキリスト教禁教令（慶長キリスト教禁教令（慶長キリスト教禁教令））

。キリスト教国の領土の野

。外国貿易商の一部民間人の富裕化防止

幕府の心配 ↓ 禁教令

の方法。宣教師の追放と信者の処罰

。外国貿易船の入港制限

。中国、オランダのみ入港許可

。長崎港に出島を築きそこに居留し 取引も出島で行う

（外国の学問・文化の研究は長崎でないと出来ない）

長崎街道の重要性 ↓ 交通量、物流が多くなった。

(3) 長崎街道

。小倉と長崎間約五十七里 その間に二十七の宿場を設置する

。宿には本陣、取舎、駄馬倉庫を整備し、町長外職員を配置する

。駄田を置く。→ 収益によつて取舎の経費をまかなう。

(4) 古代官道（長崎街道と呼ばれる前の古い道路）

(1) 大宝律令の制定（大宝元年一七〇年）畿内外六道さま

(2) 大道（西海道（九州）東海道 山陽道 南海道 山陰道 東山道

。各道に国郡郷の行政組織ができた（例 西海道（九州）大宰府の下に 九国 三島

。大宰府と各国内、国府と郡間の道路整備

（人の交通 物資 徴税物資の輸送のため）

(5) 両道の道筋と道沿いの史跡

(6) 長崎街道 塩田町東山ー南橋崎出店ー国道四九八号ー南光白道

ー片白墓地下で国道に合流ー鳴瀬入口で旧鳴瀬道ーたろしゅうす 倉清水で白石県道へ

(7) 古代官道 塩田町東山ー南橋崎トトロ峠ードウサマ墓地の下ー

大峠ー以下明確でない（長崎街道より山の方を通っていた？）

（各区の老人の方 古代官道について言ひ伝へてお知りませ下さい）

（四）街道沿いの史跡

（1）トウサマ墓地（八世紀の皇太子の墓 奈良唐土の従者の墓）

。トウサマ墓地についての言ひ伝へ

（2）恵日山東福寺（無住） 臨濟禪寺 聖一國師による開山（古文書中村文書）

◎聖一國師について（名田爾）

。國師号、天皇から賜るもの

。田爾は博多の貿易商謝國明（中国人）の援助で入宋修業し、無準師範について

臨濟の奥義を学び、無準師範から法嗣たるの印可状を受け、帰国

数年博多に居住し北九州を巡錫し、寺を建てたり弟子を育てたりした。

。帰国は仁治三年、その春橋にきて東福寺の開山をしたものと思ふ

。田爾はその後南白藤原道家の招きで京都に行き、京都東福寺の開山
と在りまゝ（臨濟宗東福寺大本山）

。東福寺は立石や東福寺区の人への善意で保存されている

（3）梅宮神社

（ア）梅宮神社の起源（奈良時代、奈良の梅宮神社の起源）

。橋諸兄の母 皇大養長 橋の三千代夫人は諸兄の父美如王の早世のため

諸兄や三人のさようたいを育てるため、皇居の命婦に就職した。

。仕事は朝廷で使う「お酒つくり」であった

三千代婦人は仕事は無事を祈って酒解神を祭られた（神社の起源）

。奈良梅宮神社の祭神（四柱）↓京都梅宮神社本殿の祭神（四柱）

大若子神（三ニギノミコト）

小若子神

酒解神（大山祇神）

酒解子神（木花咲耶姫）

。京都梅宮神社の祭神（右の四神に加えて）

奈良唐土の子清友の娘嘉智子姫は容色優れ、賢婦人として送られ、嵯峨天皇の

皇后となられた（増殖皇太后）橋系因より一人の皇后である。皇后は梅宮神社

を橋氏祖神にするため更に相殿に次の四神を祭った

② 瑳織天皇

(奈良鷹の子)

③ 仁明天皇

(橋香友) — 橋嘉智子(檀林皇后)

更に根社として若宮社に橋諸兄 護王社に橋氏公 橋逸勢を祭る

※祭神について

橋氏公(奈良鷹の孫(清友の子)) — 右大臣をつとめ 正一位

橋逸勢(奈良鷹の孫(入居の子)) — 能書家

※橋公業は橋下向の時京都梅宮神宮に参拜 祭神の中かう酒解神と

檀林皇后の二柱の神霊を勧請しそれら最初に橋の地に下られた

奈良鷹公を加之三神を祭られた

※檀林皇后は皇后になられたから子供に恵まらなかった 皇后は梅宮神宮に子供授けを祈り仁明天皇がお生まれになった

梅宮神社は子供授けと育児 酒造の二神徳がある

(4) 成瀬神社

祭神 イサナギノミコト イサナミノミコト 天の忍徳身命の三柱

(日本の一番古い神様)

(天照大神のお子様)

天孫降臨の時はじめ天忍徳身命を降臨させられた

天忍徳身命が途中から日本を見られたところ神々が騒がかった

命が待っている中に月日がたつてしまった (天の徳日命 天若日子命も 次々にこの世まで下られた)

天照大神は復命がないので待たせられず皇孫ニギハヤヒを日本に

お下りになつた (宮崎県の高千穂の宮)へ(猿田彦命の先導で成功)

一方建雷神は出雲に下り大国主命を説得し国土返還の

約束が出来た

成瀬宿は本藩領であつたので佐賀鍋島氏の信仰厚く初代勝茂公や

大代の殿様宗教公から神殿の寄贈があつていり鍋島本藩の家紋付鬼瓦が保存されている

(5) 河港成瀬港のにぎわい